

令和 8 年 一 番 茶 萌 芽 状 況 及 び 実 収 報 告

埼玉県茶業研究所

1 萌芽期

本 年	前 年	前 5 か 年
4 月 1 5 日	4 月 2 0 日	4 月 1 7 日

2 新芽の生育状況

		4 月 20 日	4 月 25 日	4 月 30 日	5 月 5 日	5 月 10 日	摘採日
芽 長 (cm)	本 年	1.0±0.6	2.1±0.9	3.6±1.4	5.6±1.9	7.3±2.3	8.1±2.4
	前 年	0.5±0.3	1.5±0.7	2.8±1.0	4.8±1.4	6.6±1.8	8.1±2.1
	前 5 ヶ年	1.2±0.6	2.0±0.7	3.9±0.8	5.7±0.9	6.4±1.64	8.5±0.6
葉 数 (枚)	本 年	0.6±0.6	1.4±0.8	2.1±0.8	3.1±0.7	3.7±0.7	3.9±0.6
	前 年	0.1±0.3	1.0±0.6	1.7±0.7	2.5±0.6	3.3±0.6	4.2±0.5
	前 5 ヶ年	0.5±0.5	1.1±0.5	2.0±0.5	2.8±0.4	3.3±0.4	3.9±0.1

3 摘採日

本 年	前 年	前 5 か 年
5 月 1 1 日	5 月 1 5 日	5 月 1 2 日

4 生葉収量 (kg/10a)

本 年		前 年		前 5 か 年	
収 量	指 数	収 量	指 数	収 量	指 数
499±34	110	511±26	112	455±56	100

5 百芽重 (g)

本 年		前 年		前 5 か 年	
重 量	指 数	重 量	指 数	重 量	指 数
52.2±8.6	89	59.9±12.2	103	58.4±6.1	100

6 新芽数 (本/m²)

本 年		前 年		前 5 か 年	
本 数	指 数	本 数	指 数	本 数	指 数
1560±273	101	1458±427	95	1541±121	100

7 出開度 (%)

本 年	前 年	前 5 か 年
67	48	47

前 5 か年は前 7 か年のうち、最高値と最低値を除いた平均値である

8 概 要

(1) 気 象

① 気 温

各月の平均気温は 1 月が 2.9℃（平年差-0.3℃）、2 月が 5.5℃（同+1.3℃）、3 月が 8.6℃（同+1.0℃）、4 月が 14.5℃（同+1.5℃）であった。5 月は第 2 半旬まで平年より 0.5℃程度低く推移している。

② 降 水 量

各月の降水量は 1 月が 0.0 mm(平年 49.1mm)、2 月が 29.5 mm(平年比 65.4%)、3 月が 98.0 mm(同 107.9%)、4 月が 106.5 mm（同 96.7%）であった。5 月は 1 日に 39.5 mm、4 日に 3.0 mm の降雨を観測した。

③ 日 照 時 間

平年と比較して 1 月は 15 時間、3 月は 9 時間程度長く、2 月は 1 時間、4 月は 5 時間程度短かった。5 月は第 2 半旬まで 6 時間程度長く推移している。

(2) 生育状況

① 被害状況

作況園における寒害（赤枯れ及び青枯れ）の被害率は、いずれも昨年並であり、枝まで枯死するような強い被害は認められなかった。

また、2 月に 2 回の積雪が観測されたものの、最大積雪量は 2 月 7～8 日の 5 cm であり、雪害も認められなかった。

春整枝以降は日最低気温が 0℃を下回ることとはなく、目視で判別できる凍霜害は認められなかった。

② 萌芽期までの生育

春整枝以降の気温が高く推移したことから、芽の動き出しは早かった。その結果、本年の萌芽期は昨年より 5 日早く、過去 5 か年平均より 2 日早い、4 月 15 日であった。

③ 萌芽期以降の生育

おおむね平年並の生育であり、摘採日は昨年より 4 日早く、過去 5 か年平均より 1 日早い 5 月 11 日であった。目視観察では、本年の芽の生育はバラつきが少ない傾向であった。

また、早生品種の生育がやや緩慢であった一方、晩生品種ほど例年より生育が早い傾向が見られた。そのため、早生から晩生までの摘採期間は例年よりも 1 週間程度短かった。要因として、3 月上・中旬の低温が影響した可能性がある。

(3) 実収等

百芽重が 52.2g（前 5 か年平均比 89%）、新芽数が 1560 本／m²（同 101%）であった。生葉収量は 499kg／10a（同 110%）と多収であった。出開度は 67%であった。

(4) 病虫害の発生状況

県予察ほ場における 4 月の発生状況は、カンザワハダニの寄生葉率が 21%（同年同月 9.4%）、チャトゲコナジラミ寄生葉率が 2%（同 19.9%）であった。チャハマキ（越冬世代成虫）の発生時期は平年よりやや早く、発生量はやや少なかった。チャノコカクモンハマキ（越冬世代成虫）は 4 月 20 日時点で予察灯への誘殺は確認されていない（平年の発生時期 4 月 27 日）。チャノホソガの発生時期は平年並で、発生量も平年並であった。

(5) 付近農家の作況

産地全体的に越冬状況は比較的良好であり、一番茶の生育に影響を及ぼすような寒害はなかった。

手摘み園の生育は、3 月上旬の冷え込みもあり、やや緩慢であった。一方、機械摘み茶園の生育は、春整枝以降の気温が高く推移したことから、平年より早い傾向であった。そのため、本年は手摘み園と機械摘み園の摘採期が近い傾向であり、スケジュール管理が難しい年であった。

機械摘み茶園では春整枝以降、ほとんど低温に遭遇することなく、芽揃いがよいと実感している生産者が多かった。一部地域ではカンザワハダニの発生が見られたものの、目立った病虫害の被害もなかった。